

令和6年度
(2024年度)

学校関係者評価報告書

令和6年(2024年) 4月1日から
令和7年(2025年) 3月31日まで

令和7年(2025年) 10月27日

学校法人吉田学園
専門学校北海道自動車整備大学校

■令和6年度(2024年度) 学校自己点検・評価について

学校関係者評価は、卒業生、保護者、地域住民、提携企業等の役職員等の学校関係者を選任し、専門学校北海道自動車整備大学校が実施した自己点検・評価結果に関する評価を行う。

また、学校関係者から、現状における課題について助言を得ることで、必要な改善に努め、学校運営や教育実践力等の向上を図る。

1. 対象期間

令和6年4月1日～令和7年3月31日

2. 委員会開催

第1回 令和7年10月27日(月)

3. 実施方法

(1)実施組織：学校関係者評価委員会

○評価委員：

三野 雅章	一般社団法人札幌地方自動車整備振興会 常務理事
加藤 敦哉	ダイハツ北海道販売株式会社 法人営業部 部長
田畑 俊輔	北海道スバル株式会社 総務部 人事教育課 課長
新田 真也	北海道いすゞ自動車株式会社 総務部 次長
木田 政彦	株式会社エステイビジネスアシスト 人材開発部 次長

○学校関係者：

大山 節夫	校長
今野 和彦	一級自動車整備学科 学科長・二級自動車整備学科 学科長
前田 一也	一級自動車整備学科 副学科長・二級自動車整備学科 副学科長
伊藤 聖	一級自動車整備学科 副学科長・二級自動車整備学科 副学科長
中谷 享弘	主任
道場 祐樹	主任
長内 昌志	学校事務部 部長

(2)評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3)評価方法：令和6年度学校自己点検・評価報告書に対する学校関係者評価

4. 評価項目

次の11項目について実施

- (1)教育理念・目標
- (2)学校運営
- (3)教育活動
- (4)学修成果・教育成果
- (5)学生支援
- (6)教育環境
- (7)学生の受け入れ募集
- (8)教育の内部保証システム
- (9)財務
- (10)社会貢献・地域貢献
- (11)国際交流

5. 評価項目に対する評価

(1) 4段階で点数評価。

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

(2) 令和6年度学校自己点検・評価報告書を基に評価を頂き、評価4未満のものを中心に、各項目の課題、対策について討議を行った。なお、委員会で提出された意見や質疑、提案事項については次の通りである。

① 項目1 教育理念・目標について

・1-2-2: 社会や関連業界のニーズについて、学科新設・カリキュラム改訂時に調査・アンケートを実施しているが、既存学科・既存の教育方針に対する調査は行っていないため、継続的にニーズを捉える取り組みが必要である。

・今後の改善方法として

既存学科・教育方針に対する定期的なアンケートを在校生・卒業生・保護者・業界関係者へ実施し、フィードバックを教育内容の改善に活用する仕組みを構築する。

② 項目2 学校運営について

・2-4-21: 関連分野以外の職員の能力研修は学園独自の教職員研修しか参加していないのが現状である。

・今後の改善方法として

今後、外部で実施をしている能力研修会に参加をしていく。

③ 項目3 教育活動について

・3-2-21 公開授業の評価者の体制が不十分である。

・3-2-22 定期的な観察が不十分である。

・今後の改善方法として

公開授業の評価者の体制については、適切な評価者の人選を行うと共に、評価体制の整備について検討を進める。

また、計画をしっかりと立てた上で質保証を目的とした定期的な観察を実施する。

④ 項目4 学修成果・教育成果について

・4-4-1: 卒業生の就職後の動向の把握については、企業の就職担当者との面談でしか実施されていない。

・今後の改善方法として

改めて卒業生による就職後の動向について把握する方法等について検討・構築を図る。加えて毎年実施している同窓会を有効に活用するなどし、卒業後の動向を把握する。

⑤ 項目5 学生支援

・特段問題なく運営されている。

⑥ 項目6 教育環境

・施設・設備の管理は各担当者を置き点検、保守、整備を実施している。

⑦ 項目7 学生の受入れ募集

- ・学生募集活動は適正に行われている。
- ・今後もより学生が理解しやすく分かりやすい広報媒体を工夫・作成を行うことで選ばれる学校を目指す。

⑧ 項目8 教育の内部質保証システム

- ・8-4-2: 卒業後のキャリア形成への効果については把握しておらず、学校の教育活動の改善に活用されていない。

・今後の改善方法として

新たな卒業生が入社した企業および就職担当者に、訪問の上でのヒアリングやアンケートの実施を等行うことで、今後の教育活動の改善に活用されるよう把握に努める。

⑨ 項目9 財務

- ・9-1-1: 定員充足が目標数に達しなかったことから、収支バランスに影響が生じている。学納金に依存した収入構造においては、学生数の変動が財政に与える影響は大きく、固定費に加えて変動費も含めた経常支出全体の見直しが必要である。中長期的な視点での財務の安定性の確保に課題を感じる。

・今後の改善方法として

学科ごとの定員充足に向けた広報戦略の強化と並行して、収支構造を精査し、固定費・変動費を含めた経常支出の見直しを進める。損益分岐点を意識した収支管理を徹底し、学納金依存からの脱却を視野に、持続可能な財務体制を構築する。

⑩ 項目10 社会貢献・地域貢献

- ・10-1-2 社会貢献・地域貢献への取組みが不十分である。

・今後の改善方法として

毎年取り組んでいる HAC モーターショウの実施と 2025 年高校生ものづくりコンテスト自動車整備部門北海道大会を社会貢献・地域貢献の有効的な活用として実施を予定。

⑪ 項目11 国際交流

- ・11-1-4: 留学生の自動車整備士資格取得率は 100%であり就職率も 100%であることから、企業からも高く評価されている。

以上